Town Topics ～まちのわだい～

伝統と郷土が生み出した名物
鮎屋三代、九州駅弁ランキング連覇達成

JR九州が主催する第２回九州の駅弁ランキングで、「鮎屋三代」が２年連続で１位を獲得しました。これは、九州の個性ある駅弁50個を対象に「味」「こだわり」「見た目」「パッケージ」「価格」で評価するもので、駅弁を食べた1,318人の投票で決定されたものです。

「２年連続の１位には正直驚きましたが、とても嬉しい。鮎は日本を代表する魚。この弁当は、鮎を知り尽くして100年受け継いできた伝統の味に加え、鮎の豆知識など旅行者の楽しみになるようなパッケージにするなど、いくつものこだわりを凝縮した商品です。その熱意と人の温かみみたいなものが皆さんに受け入れられたのではないでしょうか」と、より藤の若女将である頼藤雅子さんは笑顔でコメント。

鮎屋三代は、九州新幹線･肥薩おれんじ鉄道開業に合わせて作られはじめ、現在、年間約３万個を売り上げる八代の新しい名物になっています。

駅弁の名前の元にもなった三代目の頼藤浩さんと雅美さん夫婦 ▶

◀ 凝縮されたこだわりで２年連続の九州駅弁王者に輝いた「鮎屋三代」

今までありがとう
久多良木小学校閉校式

▲慣れ親しんだ学校に別れを告げる生徒たち

３月５日、130年の歴史を刻んだ久多良木小学校(坂本町)の閉校式が行われ、39人の児童をはじめ保護者や卒業生など多くの人が参加しました。

式では、児童による久多良木棒踊りや先生による劇の披露、参加者全員での校歌斉唱で別れを惜しみました。なお、在校生は４月からバスで八竜小学校に通学します。

100歳おめでとうございます
佐伯ユキさん

３月４日、佐伯ユキさん（郡築12番町）が100歳の誕生日を迎えました。

まんじゅうが大好物という佐伯さんは現在、敬仁病院に入院中です。お祝いに駆けつけた坂田市長が「100歳の誕生日よかったですね」と話しかけると「はい。よかったぁ」と嬉しそうに答え、親族からも笑みがこぼれていました。

▲気の向くままが長生きの秘訣という佐伯さん

間一髪での救助
消防活動等一般協力者表彰

▲表彰をうけた秋山裕二さん

２月12日の正午すぎ、植柳新町２丁目の川に誤って滑り落ちた子どもを救助した秋山裕二さん（葭牟田町）が２月27日に表彰され、その勇気ある行動が称えられました。

「『人のために』という気持ちは常にもっています」という秋山さんは、この救助を振り返り「当たり前のことをしただけです。子どもを助けたい一心で、はげた爪の痛さも水の冷たさも全く感じませんでいた。本当に子どもが無事でよかった」と笑顔で語っていました。

地域の夢ひろがる

「地域の夢」大賞元気づくり部門

2月25日、地域づくり団体熊本県協議会主催による「地域の夢」大賞が熊本学園大学で開催され、元気づくり部門では、八代市からは2団体が出場し、『日奈久温泉「山頭火から600年へ」』というテーマで、日奈久温泉発見600年祭に向けたまちづくり構想を発表した「九月は日奈久で山頭火」実行委員会が、第3位を獲得しました。

同実行委員会は、俳人・山頭火をはじめとした歴史や文化を生かしたイベントを企画し、日奈久温泉街を中心としたまちづくりを目指し活動中の団体です。

▲「九月は日奈久で三頭火」実行委員会の発表

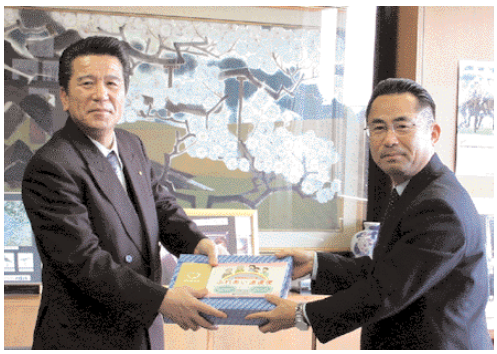
耳や言葉の不自由な人へ

「電話お願い手帳」「ふれあい速達便」贈呈

2月27日、NTT西日本熊本支店から八代市へ「電話お願い手帳」が460部、「ふれあい速達便」が290部、寄贈されました。贈呈には、平佐田正信NTT西日本八代支店長が本庁を訪れ「耳や言葉の不自由な人のために少しでも役にたてれば」と坂田市長に手渡しました。

「電話お願い手帳」は、耳や言葉の不自由な人が電話をかけたい時、近くの人に「私のかわりに電話をしてください」とお願いするために使用するもので、「ふれあい速達便」は、耳や言葉の不自由な方がコミュニケーション手段として欠かせないファクスの送信用紙のことです。

これらは、本庁障がい福祉課や各支所健康福祉課窓口で配布されます。



平佐田支店長（右）▶から坂田市長へ寄贈品が手渡されました

▲寄贈された「電話お願い手帳」（右）と「ふれあい速達便」（左）

先代の汗、今、緑たなびく

平和町入植50年記念祭

▶多数の来場者で祝われた記念祭

3月11日、JAやつしろ平和支所など南平和町で「平和町入植50年記念祭」が行われ、約500人が参加しました。

主催者である「住民らで作る実行委員会」の古賀博典会長が「50年前、長野県や鹿児島県からの入植者をはじめ、先人たちが幾多の苦労を重ね、また、皆さんの支援があって今日の緑豊かな農地ができた」と語り、関係者に感謝状が贈呈されました。

また、当時20戸の農家が入植した長野県阿智村から岡庭一雄村長も式典に参加し、交流を深めました。

地元の食材で郷土料理

八代高校生・郷土料理で異世代交流

3月2日、八代高校1年生の調理実習に八代市地域婦人会連絡協議会の12人が加わり、地元の食材を使った郷土料理の実習が行われました。

▲「普段は、あまり料理をしない」という生徒たちも手際よく調理

これは、農産物の地産地消や郷土料理についての学習、異世代交流などを目的に行われたもので、市内の高校では初めての取り組みです。

まず、地域婦人会から、食材やメニューついて説明の後、5人ほどのグループに分かれて、だご汁、このしろ寿司、盆だごなど5種類を調理。実習に参加した1年2組の杉本彩さんは、「いつもの実習と雰囲気も違い、みんなの取り組む姿勢が積極的。とても楽しい」と婦人会の人との会話を楽しみながら調理に励んでいました。